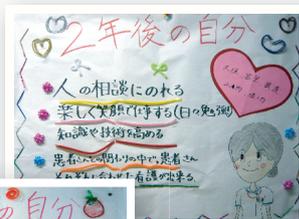




新人研修もうすぐ修了 ～1年間の成長と今後の抱負～

2月24日に、新人看護師の1年間の振り返りをまとめた発表会がありました。まず、この1年間の振り返り、「自分自身成長したこと」、次に、今後の課題、「2年後の私」、についてグループワークを行い、それぞれのグループで模造紙を使いまとめました。リボンや、折り紙、モールなどを使いカラフルに楽しくまとめられていました。1年間のまとめを行ったことで、自分に何ができるようになったか、出来るようになったことを活かして、今後どうしていきたいかという課題が明らかとなり、振り返りの良い機会となったのではないかと思います。

女子更衣室の前と、会議室へ向かう廊下の掲示板上に貼りだしてありますので、是非皆さんもご覧ください。新人だった頃の気持ちを思い出し、初心にかえられるのではないかと思います。(長元)



3東病棟 福山由夏
就職して最初の頃は、業務を行う中で報告・連絡・相談ができていないと指導を受けることが多かったです。しかし、患者のことを考えると積極的にできなければなりません。まだ経験していないことも多いので今後も継続して先輩方に相談しながら看護をしていきたいです。

3東病棟 中村美穂
これまで多くの指導をいただき、少しずつ自分で考え行動できるように成長できたと思います。これからは2年目となりますが、分らないことはそのままにせず、勉強する姿勢を忘れずにしていきたいです。笑顔を大切に頑張っていきたいと思います。

3西病棟 宮里 美樹
入職した当初は看護師としてやっていけるのか不安でいっぱいでしたが、先輩方や患者と関わり学びを深める中で、改めて看護の難しさやすばらしさについて実感できました。これからも日々勉強を積み重ね、患者に寄り添った看護が行えるように頑張っていきたいと思います。

3西病棟 上之原安紀美
1年間のローテーション研修を終え、様々な経験と学びを得ることができました。目の前のことに一歩立ち止まり、「何でだろう?」と疑問をもつ視点の大切さを学び、自分自身の成長に少しずつつながっていくことができたように思います。今後、初心を忘れず一歩一歩頑張っていきたいと思います。

3西病棟 山内さやか
この1年たくさんの先輩方に支えられ、学ばせて頂いた事に感謝しています。疾患や治療を理解するだけでなく、患者の立場にたち考えていくことや、どのような思いで入院生活を送っているのか知り、自分は何ができるのか患者と一緒に考えて看護を行っていくことの大切さなどを学びました。これからも日々勉強し、成長していきたいです。

4東病棟 堀之内梓
研修を終え、ホッとした気持ちと同時に、今後配属先の病棟でやっていけるのかという不安でいっぱいです。最初の頃と比べ、他のスタッフとの連携がとれるようになり、患者と関わる時間が増えました。これから先も、入社当初の気持ちを忘れず頑張っていきたいです。

4東病棟 中間勇二
初めの頃は仕事、環境に慣れず、自分の事でいっぱいになっていましたが、徐々に仕事に慣れ、自分の受け持ち以外でも患者に声をかけたり、周りのスタッフにも目を向けられるようになったことが一番成長したことだと思います。これからはしっかりと患者と向き合い患者、家族に信頼される様な看護師になれるよう頑張っていきたいです。

4東病棟 久保由美子
研修の最初の頃は、ちゃんとやっていけるのか不安が強かったのですが、スタッフの方からたくさんの指導をもらいながら研修を終えることができました。たくさんの学びを活かし、患者に優しく接し患者と家族にとって良い看護が提供できるようがんばっていきたいです。

4西病棟 飯田孝洋
この新人研修を通してその病棟での疾患や特有の症状、観察、検査などとても多くのことを学びました。今後は、さまざまな疾患、症状に対する観察点など知識・看護技術を確実に身につけていくとともに配属となった病棟での専門性を高めるように日々の勉強をおこなっていきたいです。

4西病棟 西本拓真
約1年間にわたるローテーション研修も無事に終わることができました。周りの方には多くの迷惑をかけましたが、それぞれの部署で出会った患者・先輩方との縁を大事にしてこれからも頑張っていこうと思います。

4西病棟 猿渡夕紀
この一年間を通して多くの患者やスタッフ、プリセプターなどに関わり自分のことを見つめ直すことができたのではないかと感じます。今後は新たな環境で仕事をしていくことになり、なれるまでに時間もかかると思いますが、自分の思いや考えをしっかりと伝え、メンバーシップや患者との関わりを大切にしていけるようにしたいと思います。



教育委員会 研修レポート

STARTING

1月27日に、新人看護師によるナラティブ発表会が開催されました。前半と後半に分け意見交換を行い、その後は主任・師長より各発表者に講評がありました。

意見交換の当初、少し消極的な印象がありましたが、時間が経つにつれたくさんの意見が出て、充実した発表会になりました。

ローテーションの中で、深く心に残っている患者さんとの関わりや、困惑したこと、感じたこと等を、自分の素直な言葉でまとめられました。患者さんに真剣に向き合い、それを文章にすることで、患者さんの思いを深く考える良いきっかけになったと思います。

今後も本日感じたことを忘れずに、これからの看護につなげていって欲しいと思います。

(中富)

JUMP 1/13 サービス評価 講師：関口看護部長

サービス評価～日本病院機能評価を用いて～医療の質評価とその基準を理解し、自部署における評価ができるを研修目標とし講義がありました。

医療の質とは、質の評価とは？と順序をおって講義をうけ、実際の機能評価ver. 6

「2. 2患者—医療者のパートナーシップ」についての評価をグループにわかれて行い、その他の項目は課題として出され、各自で評価・改善策の検討まで行ってもらいました。グループや自己で評価することで、普段の自分たちの取り組みがしっかりなされているか振り返る機会にもなったと思います。

講義のなかで、患者さんの権利・義務とはなにか、患者さんに納得してもらって治療するためには、どのように関わっていく必要があるか、（ポケットマニュアルを携帯しているでしょうか？）病棟における倫理的問題にはどのような事例があるか、その対応はどうするかなど考える講義となりました。

日本病院機能評価認定施設として、皆さんも評価内容を見て、日々の看護の取り組みに活かしてほしいと思います。（田口）



プリセプター・エルダー会

H22年度のプリセプターの任期が間もなく終了しようとしています。2月17日は最後のプリセプター会でした。

- ☆一年間の反省：人に教える事の難しさ、相手を理解した上で特徴を踏まえての説明ができていなかった、新人の相談にのるなど深い関わりができなかった、勉強不足を実感しい振り返りの機会となった。
- ☆次年度に向けて：新人が動きやすい環境作り、皆で指導できる雰囲気と積極性を指導出来たらいい、次年度エルダーになる為、プリセプター・新人の支えになれるように相談に乗っていきたい。
- ☆エルダーから：プリセプターがとても頑張っていたこと、自分から声掛けが出来ない場面があったが、プリセプターの方から相談にきてくれていた。

一年間の成長

- ★見られている意識が出た。
- ★仕事が楽しくなった。
- ★教える事の難しさを知った。
- ★責任感がついた。
- ★勉強するようになり、今後の目標ができた。

等それぞれの成長がありました。

最後にプリセプター全員に修了証書と記念品の贈呈がありました。

ひと回り大きく成長した皆さん、今後の活躍を期待しています。（瀬戸口）



講演会

2/5 「色の癒しでこころとからだを元気にする」 講師：甲斐綾子氏

イルドクール鹿児島代表の甲斐綾子さんによるカラーセラピーの講演を実施し、41名（院内31名・院外10名）の参加がありました。クレヨンを使って「悲しみ」「いかり」「わくわく」「安心」を自由に表現するワークを行い、研修が終わる時にはすっかり癒された気分になりました。

色には意味があり、自然と気持ちを色に表現しているので、そのことに気づいて今後どうしていくか行動の参考にできる、また自分に似合う色を身につけると外見に自信がつき、外から中に自分が変化できると話されました。

自分が一年をどんな年にしていきたいのか、例えば引越しやリーダーシップを発揮していきたい時には赤い色をテーマカラーにして動くと、活動的でエネルギーに動けます。心と体はつながっています。自然と選んだ服に目を向けて自分の心理状態を考えてみたり、元気を出したい時には、赤やオレンジの色を身につけてみてはどうでしょうか。

病院での煩雑な業務には、ストレスがかかることも多いので、色と向き合って上手にメンタルケアができるといいなと思います。

イルドクール鹿児島のHPを一度のぞいてみてください。（瀬戸口）

ホームページアドレス：<http://idckagoshima.web.fc2.com/>



10/20放送 「エビデンスに基づいた実践とはどのようなものかを知ろう」

エビデンスに基づいた看護とは？ということから始まり実際の事例を取り入れながら、問題点の優先順位の決定・ガイドラインの活用方法・研究結果に対する評価のポイントなど、わかりやすく取り上げてあり看護研究を行っていくうえで、研究の進め方や自分たちが行いたい研究に対し、論点がずれないようにするには、どうすればいいかなど、とても参考になる内容でした。(赤瀬川)

11/4放送 「極めよう！最新のストーマケア技術」

ストーマ、装具の基礎知識やスキンケアについて分かりやすく講義されています。現在、緩和ストーマの増加やストーマケアの質向上が求められており、装具やスキンケア用品も増えているなかで、事例を用いながら個別性に合った装具の選択などを学ぶことができました。(児玉)

11/17放送 「極めよう！最新の褥瘡ケア」

褥瘡評価のDESIGN-R、皆さんも以前に勉強したけど、うろ覚えでいまち自信が無い、最近では褥瘡ケアをしていないと思っているかた、そんな時にはこの研修を観れば、思い出しますし、最新の褥瘡ケアの方法や皮膚の解剖生理まで学び直すこともできます。これさえ観ておけば褥瘡ケアの時に心のゆとりができるかも^^、ぜひご覧ください。(小坂)

12/1放送 「早期離床のためのリハビリテーションの知識と技術」

今回、早期離床の必要性を学びました。安静臥床の身体へ及ぼす影響は、廃用症候群で身体活動の減少によって発生する様々な機能の低下があり、筋力低下、筋萎縮、筋量の低下などである。人間の体は、重力環境下で生活しているため、頭を上げるだけではなく出来るだけ腰かけ座位を取ることが望ましい。病状の安定に合わせて速やかにリハビリを勧めることで早期離床に繋がると認識しました。(末永美和子)

12/15放送 「摂食嚥下訓練に必要なアセスメントと技術」

人間にとって「口から食べる」意義という説明から入り、摂食・嚥下障害の誘因となる疾患・嚥下のプロセス（5期のモデル）やアセスメントの行い方など詳しく説明してあり、病院でも摂食機能療法を取り入れており、興味をもてる内容であり、今後活かせる内容でした。(黒坂)

1/15放送 「代表的検査データの読み方〔基礎〕」

なんとなく検査データの高低値をみるより（検査の項目・種類が多すぎて覚えきれないけれど）その検査内容と疾患が結び付けば治療内容が理解でき観察項目もあがってくるので看護がしやすくなると思いました。知らないこと・忘れてしまっていることも納得できて看護がおもしろいと感じられました。是非見て下さい。(楠木)

1/19放送 「医学的診断のHOW TO ～医師は病気をこうとらえている～〔応用〕」

様々な情報から予測をして患者を観ていくこと、疾患に対する・人体に対する知識、常にフィードバックしていくことが大切であることを改めて学びました。120字程度で十分な内容を伝えることはできませんが是非この研修を観て皆さんも患者さんの看護に生かしてください。(末永剛)

2/2放送 「医療における患者からの暴言・暴力等への対応」

医療の現場にて、患者さんやその家族などから暴言・暴力を受けた事がありますか。そんなクレマーの要因や予防対策、対応の実際まで、日本国憲法、民法、労働安全衛生法、医療法、看護業務基準などを紹介しながら解説されています。当院にも『患者・家族等からの暴力（暴行、暴言等）の対応』についてのマニュアルがSafe Masterに作成されています。この放送をみて、早速、当院のマニュアルもみてみましょう。(吉永)

リハ看護師認定コースを受講して

回復期リハビリ病棟 大重かおり

全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催による、計18日間の研修を受講しました。回復期における看護師の役割について学び又、基本動作訓練や摂食嚥下について実習も行ってきました。全国の回復期リハビリ病棟に勤務する看護師とのワークショップや事例検討会では様々な意見が飛び交い、各病院（病棟）の取り組みなどを聞く事ができ又、アドバイスも頂け、緊張もあったが意見を言い合える良い機会の場でもありました。

回復期リハ病棟は他職種との連携・チーム医療がなければ患者・家族の希望に近づけたケア・リハビリの統一や継続は困難です。多様に変化していく社会が求める質の高い看護サービスは何かを敏感に捉えながらチーム医療の中心となって患者の望むゴールへ近づけるようなサービス提供をしていこうと思います。障害受容へのアプローチに対しても、患者と寄り添い傾聴しながら共に考え前進できるよう関わっていこうと思います。



私の自慢

回復期リハビリテーション病棟 東野正憲さん

私は3人兄弟の末っ子です。2011年1月3日に3人目のおじちゃんになりました。

今回出産したのは私の姉です。姉の旦那はバッチリ二重、姉もバッチリ二重!!もちろん生まれてきた赤ちゃんも二重だったのですが、医師・助産師からも「こんなバッチリ二重の赤ちゃんは見たことがない、ネームバンドをしなくても誰の赤ちゃんか分かりますね」と言われてました。本当に可愛い甥っ子です。将来はジャニーズに入れるかもね(笑)

よろしくでチヨ



生後1ヶ月くらい

マイフォーム

4西病棟 下菌陽子さん

私は、仕事に疲れたら、友人と一緒に食事やお茶に行き、おしゃべりをします。最近、気に入っているお店は、串木野にある"CAFE 60"です。ケーキが素朴で美味しいですよ!

お気に入りのカフェで、親しい友人と2時間なんてアツという間に過ぎてしまいます。よくおしゃべりするのは、小学校の同級生で、とても明るくて、よく笑い、一緒にいると、いつの間にか元気をもらいます。つい最近の話では、ゴミ収集車が発進していることに慌てた友人は、走ったのはいいけど…そのまま転倒。誰にも見られていないことが恥ずかしく、一緒に笑って欲しかったと。笑い転げながら…私なら、見られてなくてホッとしたいと思うのに、物事は考え方次第だなー、すごいなーと感心。カフェを出る時には、仕事の疲れがすっかりとれている私でした。



小集団活動報告会

2月22日に小集団活動年間評価発表会が行われました。

専門性を高めるための知識向上を目標にしたチーム、カンファレンスの充実を目標にしたチーム、内薬管理や退院指導、看護記録に関する活動をしたチームなど、いろいろな発表があり、各チームの活動の努力と成果がありました。

活動をとおして、チームで取り組むこのような活動ができるという経験をされたと思います。日頃、こんな看護をしたいけど1人では難しいと考えていることをこの小集団活動を活用すると自分のやりたい看護が実現します。

看護の質の向上を目的にそれぞれの活動がどうつながっているかを考え、評価に挙げた課題を次年度の活動に生かして取り組みましょう。

1年間お疲れさまでした。(村尾)

パス大会報告

今年度で「クリニカルパス大会」は10回目を迎えました。平成19年より電子カルテの導入でCP委員会はCPの電子化に取り組んできました。昨年度まではCP委員のみでクリティカルパスの電子化に取り組んできましたが、今年度、CP委員以外の、各専門の先生方や病棟師長、主任、並びにスタッフの方々の協力により、58のパスを電子化へ移行する事が出来ました。

紙パス使用されているパスは残り48ですが、23年より情報管理室の協力を得ることが出来る事になりましたので、ますます移行はスムーズになることと思っています。

今年度の演目では、皆さんが日々記載して下さったバリエーションの中から分析を行いました。クリティカルパスが電子化してから初めての試みでした。パス統計では今後作るべきパスの方向性を考えました。

地域連携パスの集計結果で在宅復帰率は予想を超えていました。データの蓄積で、さまざまな事が分かり日々業務の中で役立てていただけたらと思います。

最後に病棟で実際にパスを活用する皆さんの手で作成されたパスは患者さまにとって最良のものであることは間違いないと考えています。今後もパス作成にご協力をお願いします。(濱田)

編集後記

今年に入り新燃岳の噴火、ニュージーランド地震、そして11日に発生した東日本大震災と大津波…自然の脅威にただ唾然とするばかりです。被災した小学生が「今までどんなに裕福だったかわかった」とTVで答えている場面も。家族や家を一瞬で失うということは、いかに大きな喪失感なのか…。

今、世界中の人々が“Pray For Japan”日本のために祈ってくれています。一刻も早く今の状況から脱却して、被災地が復興出来ますように! 「朝が来ない夜はない!」